

☆みんなの記憶力にチャレンジ

きおくりよく

あんしやう 暗唱にトライしてみよう 1

わが国くにで有名な俳句はいくや短歌たんかをいくつか集めてみました。子ども時代こども じだいに覚えたものは、大人おとなになってからも忘れないだけでなく、みなさんの人生じんせいのいづれかの場面で生かされることもあります。

おうちの人ひとといっしょに、楽しくトライしてみてくださいでしょうか。覚えられたなら、チャレンジカードに「せきちゃん・きたちゃんマーク」を貼るようにならしてください。

〔俳句〕

1 閑かさや 岩にしみ入る 蝉の声

まつおばしやう
松尾芭蕉

2 をとどひの へちまの水も 取らざりき

まさおかしき
正岡子規

3 春の海 ひねもすのたり のたりかな

よさぶそん
与謝蕪村

4 名月や 池をめぐりて 夜もすがら

松尾芭蕉

5 赤い椿 白い椿と 落ちにけり

かわひがしへきことう
河東碧梧桐

6 やせ蛙 負けるな一茶 これにあり

こばやし いっさ
小林一茶

7 柿くへば 鐘が鳴るなり 法隆寺

正岡子規

8 荒海や 佐渡に横たふ 天の川

松尾芭蕉

9 くらがねの 秋の風鈴 鳴りにけり

いいただこつ
飯田蛇笏

10 冬紅葉 冬のひかりを あつめけり

くぼたまんたろう
久保田万太郎

〔短歌〕

11 東ひんがしの野のにかぎろひいの立つ見えてたみ かへり見すればみ 月傾つきかたぶきぬ
柿本人麻呂かきのものひとまる

12 春過はるすぎて 夏来なつきにけらし 白妙しろたえの衣ころもほ干ちようすてふ 天あまの香かぐ久やま山
持統じとうてんのう天皇

13 秋来あききぬと 目めにはさやかに 見みえねども 風かせの音おとにぞ 驚おどろかれぬる
藤原敏行ふじわらとしゆき

14 さざ波なみや 滋賀しがの都みやこは 荒あれにしを 昔むかしながらの 山やま桜ざくらかな
平たいらの 忠度ただのり

15 ふるさとの 山やまに向むかひひて 言いうふことなし ふるさとの山やまは ありがたきかな
石川啄木いしかわたくぼく

16 花はなの色いろは 移うつりにけりない いたづらに わが身世みやよにふる ながめせしまに
小野小町おののこまち

17 田子たごの浦うらに うち出いでてみれば 白妙しろたえの 富士ふじの高嶺たかねに 雪ゆきは降ふりつつ
山部赤人やまへのあかひと

18 あをによし 奈良ならの都みやこは 咲さく花はなの 匂におうがごとく 今いま盛さかりなり
小野老おの

19 たはむれに 母ははを背せ負おいて そのあまり 軽かるきに泣なきて 三歩さんほ歩あゆまず
石川啄木

20 春はるの鳥とり な鳴なきぞ鳴なきぞ あかあかと 外との面もの草くさに 日ひの入いる夕ゆうべ
北原白秋きたはらはくしゅう

☆みんなの記憶力にチャレンジ
暗唱にトライしてみよう 2

わが国くにで有名な俳句はいくや短歌たんかをいくつか集めてみました。子ども時代こどもじだいに覚えたものは、大人おとなになってからも忘れないだけでなく、みなさんの人生じんせいのいずれかの場面で生かされることもあります。

おうちの人ひとといっしょに、楽しくトライしてみてくださいでしょうか。覚えられたなら、チャレンジカードに「せきちゃん・きたちゃんマーク」を貼るようになしましょう。

〔俳句〕

21 菜の花な はなや 月は東つき ひがしに 日は西ひ にしに
与謝蕪村よさぶそん

22 夏草なつくさや 兵どもが 夢の跡ゆめ あと
まつおばしろう
松尾芭蕉

23 朝顔あさがおに 釣瓶つるべとられて もらい水みず
かがのちよじよ
加賀千代女

24 夏川なつかわを こすうれしさよ 手にぞうりて
与謝蕪村

25 秋深あきふかき 隣となりは何なにを する人ひとぞ
松尾芭蕉

26 すずめの子こ そのけそこのけ お馬うまが通とおる
こばやし いっさ
小林一茶

27 梅一輪うめいちりん 一輪いちりんほどの あたたかさ
はっとりらんせつ
服部嵐雪

28 旅たびに病やんで 夢ゆめは枯野かれのを かけめぐる
松尾芭蕉

29 いくたびも 雪ゆきの深ふかさを たずねけり
まさおかしき
正岡子規

30 雪ゆきとけて 村むらいっばいの 子こどもかな
小林一茶

〔短歌〕

31 箱根路を はこねじ 我が越えくれば わ こ 伊豆の海や いず うみ 沖の小島に おき こじま 波の寄る見ゆ なみ よ み
源 実朝 みなもの さねとも

32 見渡せば みわた 花も紅葉も はな もみじ なかりけり うら とまや 浦の苫屋の あき ゆうぐ 秋の夕暮れ ふじわらのていか
藤原定家

33 東風吹かば こちふ 匂ひおこせよ におい 梅の花 うめ はな 主なしとて あるじ 春を忘るな はる わす
菅原道真 すがわらのみちざね

34 願はくは ねがわ 花の下にて はな した 春死なむ はるし その如月の きさらぎ 望月の頃 もちづき ころ
西行 さいぎよう

35 いちはつ はな の花咲きいでて はな 我目には わがめ 今年ばかりの ことし 春行かんとす はるゆ
正岡子規 まさおかしき

36 この世をば よ 我が世とぞ思ふ わ よ おもう 望月の もちづき 欠けたることも か なしと思へば おも
藤原道長 ふじわらのみちざね

37 奥山に おくやま 紅葉踏みわけ もみじふ 鳴く鹿の な しか 声聞くとときぞ こえき 秋は悲しき あき かな
詠み人知らず よ びとし

38 天の原 あま はら ふりさけ見れば み 春日なる かすが 三笠の山に みかさ やま 出でし月かも い つき
阿倍仲麻呂 あべのなかまろ

39 みちのくの はは 母のいのちを ひとめみ 一目見ん ひとめみ 一目見んとぞ ただにいそげる
齋藤茂吉 さいとうもきち

40 幾山河 いくやまかわ 越えさり行かば こ ゆ 寂しさの さび 終てなむ は んくに 国ぞ きよう 今日も旅ゆく たび
若山牧水 わかやまぼくすい

☆みんなの記憶力にチャレンジ

暗唱にトライしてみよう 3

わが国くにで有名な俳句はいくや短歌たんかをいくつか集めてみました。子ども時代こどもじだいに覚えたものは、大人おとなになってからも忘れないだけでなく、みなさんの人生じんせいのいずれかの場面ばめんで生かされることもあります。

おうちの人ひとといっしょに、楽しくトライしてみてくださいでしょうか。覚えられたなら、チャレンジカードに「せきちゃん・きたちゃんマーク」を貼るようにならう。

〔俳句〕

41 遠山とおやまに 日ひの当たりたる 枯野かれのかな 高浜たかはま虚子きよこ

42 名月めいげつを とつてくれろと 泣く子なこかな 小林こばやし一茶いつさ

43 山路やまじき来て 何なにやらゆかし すみれ草ぐさ 松尾まつお芭蕉ばしょう

44 目めには青葉あおば 山やまほとどぎす 初鯉はつがつお 山口やまぐち素堂そどう

45 散れば咲き 散れば咲きして 百日紅さるすべり 加賀かが千代女ちよじよ

46 赤あかとんぼ 筑波つくばに雲くもも なかりけり 正岡まさおか子規しき

47 古池ふるいけや 蛙かわず飛び込む 水みずの音おと 松尾まつお芭蕉ばしょう

48 寒月かんげつや 門もんなき寺てらの 天高てんたかし 与謝よさぶ蕪村そん

49 さらさらと 竹たけに音おとあり 夜よるの雪ゆき 正岡まさおか子規しき

50 五月雨さみだれを 集あつめて早はやし 最上もがみ川がわ 松尾まつお芭蕉ばしょう

〔短歌〕

51 秋の田の 仮庵の庵の 苦をあらみ わが衣手は 露にぬれつつ
あき た かりほ いお とま ころもて つゆ
てんじてんのう
天智天皇

52 人はいさ 心も知らず ふるさとは 花ぞ昔の 香にほひける
ひと こころ し はな ぶかし か におい
きの つらゆき
紀貫之

53 大海の 磯もどるに 寄する波 われて砕けて 裂けて散るかも
おおうみ いそ よ なみ くだ さ ち
みなもとのさねとも
源実朝

54 東海の 小島の磯の 白砂に われ泣きぬれて 蟹とたはむる
とうかい こじま いそ しらすな な かに わ
いしかわたくぼく
石川啄木

55 のど赤き 玄鳥ふたつ 屋梁にみて 足垂根の母は 死にたまふなり
あか つばくらめ はり い たらちね はは し たもう
さいとうもきち
齋藤茂吉

56 白鳥は 哀しからずや 空の青 海のをにも 染まずただよふ
しらとり かな そら あお うみ お そ
わかやまぼくすい
若山牧水

57 いのちなき 砂のかなしさよ さらさらと 握れば指の 間より落つ
すな にな ゆび あいだ お
石川啄木

58 死に近き 母に添寝のしんしんと 遠田のかはづ 天に聞こゆる
し ちか はは そいね とおだ わず てん き
齋藤茂吉

59 石激る 垂水の上の さ 蕨の 萌え出る春に なりにけるかも
いわばし たるみ うえ わらび も いづ はる
しきのみこ
志貴皇子

60 はたらけど はたらけど猶 わが生活 楽にならざり ぢっとて 手を見る
な お くらし らく じっとて み
石川啄木